

2023年1月20日 第3416回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 前田 会長
<斉 唱> 「それこそロータリー」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
<ビジター紹介> *RI第2380地区ガバナー 田中 常浩様 (むつRC)
*むつロータリークラブ 会長 柳谷 敬様
会長エレクト 藤野 芳孝様
*RI第2780地区ガバナー 佐藤 祐一郎様 (津久井中央RC)
*横浜ロータリークラブ 杉山 徹様
*鎌倉中央ロータリークラブ 石井 啓市様

- <会長報告> *ガバナー事務所より
・青少年交換2023-24年度第1回ホストクラブ説明会のご案内について
2月4日(土) 14:00~15:30 於: 第一相澤ビル8F「会議室」
・青少年交換 派遣候補生オリエンテーションのご案内について
2月4日(土) 15:30~17:00 於: 第一相澤ビル8F「会議室」
*馬場会員(JTB)の転勤による退会報告(2/1付)
<委員長報告> *地区クラブ管理運営委員会 小山陽生副委員長より
第2回新会員の集い開催について
2月18日(土) 17:30~20:30 藤沢ミナミパーク6F多目的ホール
基調講演 「ロータリーを楽しむために！」
国際ロータリー第2780地区佐藤祐一郎ガバナー

- <幹事報告> *第1グループ会長・幹事会 報告
*ガバナー月信 NO.7
*週報 横須賀北RC、横須賀南西RCより受領

- <出席報告> *出席委員会 加賀本委員より1月20日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
115名	107名	69名(2名)	36名	7名	72.38%

<ニコニコ報告>

- ・国際ロータリー第2780地区ガバナー 佐藤祐一郎様 本日の青森よりの田中ガバナーと一緒に参りました。本年度もあと半年です。宜しく御願い申し上げます。
- ・杉山 徹様 (横浜RC) 横浜RC、NHKニッパツの杉山と申します。ゴルファーの皆様には当社ブランドゴルフシャフト「NSプロ」をご愛用頂きまして誠にありがとうございます。ゴルファーのお二人にお一人、又、女子プロでは約6割の方々にご愛用頂いております。年間約700万本を生産しております。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。
- ・石井 啓市様 (鎌倉中央RC) 鎌倉中央RCの石井と申します。本日ビジター参加させて頂きました。宜しくお願い致します。
- ・三 役 国際ロータリー第2830地区ガバナー 田中常浩様、第2780地区ガバナー 佐藤祐一郎様、むつロータリークラブ会長 柳谷 敬様、会長エレクト 藤野芳孝様、横浜ロータリークラブ 杉山 徹様、鎌倉中央ロータリークラブ 石井啓市様、ようこそお出でくださいました。横須賀ロータリークラブの例会をお楽しみください。
- ・小山(慎)、大野(健)、松岡、比護、杉浦、新倉(健)、岩崎、鈴木(健)、濱田、小佐野、小林(健)、佐久間、八巻、田邊、齋藤(真)、北村、小沢、勝見、波島 各会員 ビジターの皆様ようこそ横須賀RCへお出でくださいました。本日の例会どうぞお楽しみください。
- ・長尾 会員 横浜ロータリークラブより日本発条(株)代表取締役 杉山 徹様ようこそ。

- ・曾 我、鈴木 豊 両会員 誕生月祝いとして
- ・新倉 健 会員 入会月祝いとして
- ・梁 井、椿、加藤 博、大野 健、石 田、比 護、上 田、大 石、木 村、
田 村、新倉 健、永 井、松本 剛、勝 間、小 平、新倉 健、江 口、小山 剛、
福 西、畑、南、濱 田、若麻 績、八 巻、猿 丸、徳 永、澤 田、田 邊、
齋藤 眞、笠 木、宮 島、加賀本、飯 塚、渡 邊、根 岸、曾 我、波 島 各会員
浅葉会員、杉浦会員、本日の新会員卓話楽しみにしています。どうぞ宜しくお願いしま
す。
- ・浅 葉 会員 ついに私の番になりました。お手柔らかにお願いします。
- ・杉 浦 会員 本日卓話をさせていただきます。今からドキドキしています。宜しくお願い致します。
- ・二 瓶 会員 来週横須賀学院中学校の職場体験があります。コロナ禍によって2年程正規のプログラ
ムが実施できませんでしたが、今年は実施できそうです。運営を統括してくださっている
職業奉仕委員長の八木達也会員、生徒への有意義な講演を担当してくださった田中由
紀子会員ありがとうございました。また、生徒を受け入れてくださる各事業所の皆様、
お世話になりますがどうぞよろしくお願いいいたします。
- ・鈴木 豊 出席委員長 2月10日、100%出席例会、皆様お力添え宜しくお願い致します。
もしご出席頂けない場合でもスマホさえあれば簡単に出席できます。是非是非皆で成功
させましょう！
- ・長谷川、新倉 健、江 沢、齋藤 眞、二 瓶、波 島、兼 城 各会員
横須賀学院高校女子硬式テニス部が明日1月21日、明後日22日、兵庫県神戸市で開
かれる全国私立高等学校選手権に初出場します。念願の全校大会ががんばれ〜！！
- ・中村 剛 会員 昨年の夏より愛犬リキくんが家族の一員になり毎日一緒に過ごせて幸せです。

<新会員卓話 1>

浅 葉 孝 己 会 員

皆さんこんにちは。2年前の6月に入会させて頂き
ましていよいよこの順番が回ってまいりました。「今ま
での人生、これからの人生」という題に決めてスライ
ドを作って来ましたので、ご覧頂きがらということ
をお願いしたいと思います。私は、1954年2月13
日に横須賀市武山に住む父浅葉千代松と小田原出身の
母トシ子の長男として生まれました。現在68歳にな
ります。住まいは、横浜駅から徒歩5分の横浜市神奈
川区台町のマンションで部屋が4つあり1階は放課後
デイの教室になっています。24歳年下の妻との間に
10歳6歳4歳、そして昨年11月に生まれた女の
子を含め4人の子供がおり1番上の23歳の娘と義理
の母と7人家族で住んでいます。私が生まれたのは、
母の実家で小田原市下曾我にある仇討ちで有名な曾我
兄弟ゆかりの曾我の杓石という家です。曾我兄弟が父
の仇工藤祐経を富士の裾野で討つ話は有名です。実家は兄弟が育った傘焼きで有名な城前寺の隣りにあり、
五郎が病み上がり自分の剛力の回復を確認するため河原の大石を踏むと足形が大きく凹みこれが石垣に飾
ってあり、溜まった水が皮膚病にきくと村人の信仰を集めています。今でもこの伝説のお菓子が販売されて
います。当ロータリーの曾我くんは十郎の子孫とのこと。私は、その家来の子孫と思われま。己の孝心を
確かめたで孝己と名付けられました。父は、武山の太田和の名主浅葉仁右衛門・孫右衛門の子孫でした。勤
めは横須賀米軍基地の艦船の修理工でした。武山の田舎で小学校・中学校を過ごしました。常に学級委員で
マラソンも早く学年トップで全てのリーダーでした。小学4年生のとき、近くの新聞店の友人は足が悪く、



車いす生活で1度も学校に来られていない話を聞きました。友達を誘って見舞いに何度も行き学校の話や友人の話をしているうちに雑誌小学4年生がこの話を取り上げて10ページにわたり掲載し日本赤十字社からも黄十字賞を頂きました。当時日本はまだ戦後の復興期で、学校には、十分な食事がとれない子や風呂にも入れない子がおり、母の指示で自宅に招き、一緒に過ごした経験もあります。障がいのある子も数名おり、その子たちの面倒をみるのも私の役目でした。

高校は県立横須賀高校に進みました。目立ちたがりの性格のため、中学高校を通じて常に応援団長を務めました。当会の八巻会員も同期ですが、同じクラスに現在の横須賀市長の上地克明氏と妻嗣奈江さんがいました。横須賀高校は3年間クラス替えもなく、その後2年間私は上地兄弟のアパートで過ごすこととなります。大学は、18歳で父が他界したため母妹と母子家庭になったので、学費のことも考え国立大学への進学を目指しました。浪人までしましたが志願の一橋大学には入れず結局、慶応義塾大学商学部に進みました。何のことはなく私ほど苦勞をしている人はいないとのことで、大学側が給費生扱いにしてくれ授業料は当初無料でした。当時横須賀に慶応の学生会があり、織茂会員や長尾副会長はその時からの友人です。上地君と暮らす中で彼は「自分の力で政治家の道を歩むけどおまえはどうするのか」と訊かれ、悔しいので「人を助ける実業家になる」と宣言しました。できることは、子供に勉強を教えることしかなかったため、佐野に友達と家庭教師センターを作り、大津で進学塾を始めました。横須賀中央、衣笠、久里浜、北久里浜にスクールを作り、32歳までに横浜地区を含め8スクール1,300人の生徒を抱えました。自分の成長のため横須賀青年会議所にも入会しました。入会翌年から卒業まで日本JICにも出向し、「青年の船」や小原会頭のもと副委員長やセクレタリーを務めました。日本JICの先輩たちに実力を認められたのがとても嬉しかったです。横須賀JICの先輩にも可愛がってもらい、多くのご子息お嬢様方のお勉強に家庭教師を付けさせてもらいました。当クラブにも10人ぐらいおられます。

今から20年前茨城に本校のある広域通信制高校の翔洋学園からの依頼を受け、横浜西口に学習センターを開きました。私の時代の横高があまりにもひどかったため通信制でも本人次第と考え予備校部門を作りMARCHや早慶レベルにも進学させました。私立高校で喧嘩をして転校してきた生徒がいました。ある時、夜遅く教室に明かりが灯っていたので見に行く、と数名で酒盛りをしていました。さんざん説教した次の日、教室に消火器を噴射され消火剤をばら撒かれました。社会福祉士の先生から100名に及ぶサポート校の生徒の8割は発達障がいのある生徒だと教わりました。昔はやんちゃか大人しいの2択の生徒でしたが今の生徒は引きこもる大人しい生徒ばかりです。今から10年前厚生労働省から発達障がい児の学童として放課後等デイサービスを始めるとの話がでました。いち早く手を挙げました。うちの学校に来る前でお母さん方と話しがしたかったからです。放課後等デイサービスの費用は、9割が行政負担です。普通の方の上限は月4,600円です。対象は、発達障がいのある小中高生です。塾代わりに安く使えるので人気でたと思います。横浜西口・藤沢・相模大野で「カナガク自立支援学習センター」という放課後等デイサービスを始めました。当時妹が逗子の小中学校の保健室の先生である養護教諭でした。保健室登校しかできない生徒も多く、いろいろと意見交換していました。ADHDやアスペルガー、多動症、自閉症の発達障がいのある生徒は知的障がいがある場合が多く、小学3、4年生の算数についていけない生徒を支援級という特別クラスに移動してもらうのが学校側の方針です。地元には療育センターがあるため、今では、小1から支援級にあがる生徒も珍しくなくなりました。そのような生徒を対象にまず生徒本人のレベルに合わせ学習療育を中心にスタートしました。1度支援級に移るとそのまま中学3年まで進みます。現在横浜市では市内の全中学校に個別支援級を設けています。当社の放課後デイは学習療育を中心に進めていき10年後の現在、「カナガク自立支援学習センター」と「子育て支援和美」の名前で県内30にも及ぶ通所を運営するまでになりました。今迄の経験が生きました。

先日の全国調査でも小学生では8人に1人、中学校では6人に1人の割合で発達障がい児がいるようです。40人学級では4、5人の発達障がい児、とやはり4、5人の不登校生を抱えています。不登校の生徒もコロナの影響で激増しています。また通信制高校を利用したい中学生も年々増えています。発達障がいのある生徒や親は中3のとき卒業後の進路で悩みます。中学の支援級では、①5段階の内申点がない②支援級では、英語・数学・国語などの主要科目の指導をしない③行先は進路指導や担任により決められてしまう。そこで支援級の多くの生徒は特別支援学校（養護学校）の高等部に進学します。三浦半島には、岩戸と武山に養護学校があります。しかし療育手帳のある生徒しか受け入れがありません。高等部の定員も限りがあり、希望者が多く1都3県では高等部がパンクしています。そこで分教室を設置しています。横須賀地区では、津久

井浜高校が定員15名で受け入れています。しかし養護学校は高校ではないため、卒業しても高卒ではありません。そのため就職面で苦労します。軽度の障がい児の生徒でも3割しか就職できません。それも企業が設置した、掃除か軽作業などを行う特例子会社しかありません。残りの3割が自立訓練か就労移行支援の事業所に入ります。残りは作業所になります。ひどい場合は、グループホームに入り、そこから作業所に通う人生になります。43.5人以上の従業員を持つ民間企業は、従業員の2.3%に相当する障がい者を受け入れることになっていて、これが達成できないと足りない人数一人につき50,000円の納付金を払うことになっています。皆さんの会社でも納付金で済ませるのではなく是非、受け入れてください。

しかし高校卒業資格があれば専門学校に行き就職の道が開けます。調理師、美容師、保育士、看護師などになるためには高卒から専門学校にいきます。ここ3年前より神奈川県だけインクルーシブ校を推進しています。県内14の高校で21名ずつ受け入れています。1クラスに3名ずつ配置し、副担任は置くのですがわからなくてもみんなと同じ授業を受けることになっています。横須賀市では津久井浜高校がインクルーシブ校です。障がい児にも公立高校進学の手を助けたのですが小中で分けていたのが高校で一緒に勉強するには無理があり、人気もあまりありません。そこで脚光を浴びているのが広域通信制高校です。通信制の高校は全日制、定時制のように出席義務はなくレポートの作成と年間1週間のスクーリングとテストで単位が認定されます。不登校ぎみの生徒にはピッタリの仕組みです。近い将来高校進学者の1割が全日制ではなく通信制高校を選ぶといわれています。しかし、年間授業料が高くサポート費用が100万円から150万円する高校ばかりです。

高額な授業料を安くし放課後放デイで支援する「大成学園、学習支援コース」を設置したところ去年は30名の高校1年生が入学し来春にはすでに50名の希望ができています。支援級の生徒にも中学の学び直しをさせ3年間で高校卒業し専門学校や大学に進学させ就職させる方法です。毎月県内各地で発達障がい児・不登校生の進路を考える会を主催しています。毎回10人から20人の保護者に参加頂き、私の話を聴いて頂いています。来年からは、自立訓練2年の「カナワビカレッジ」を県内に随時オープンしていきます。これは特別支援学校を卒業した生徒を中心に高卒認定を免除し、科目方式で簡単に取得してもらうことも内容に加えています。当社は『発達障がいのある生徒にも高卒資格を』をスローガンに掲げています。高校生になりたい。高校に進学したい方は中学生の内から放課後デイで英語・数学の基礎学習をしてもらいます。

横須賀方面には、京急の快速特急が止まる主要駅に新規通所を作る計画です。京急沿線には川崎一東神奈川一横浜西口一南太田一上大岡一金沢文庫一横須賀中央一北久里浜のスクールがあります。上大岡駅も電車で見えるすぐ横に通所をオープンしていますので電車から見てください。北久里浜校には高校生用の教室も用意しました。

この10年で会社の規模は拡大し年商8億円を超し今年は10億円規模になります。県内中心に通所の数も30になり従業員も200人を超す規模になりました。これからの人生の目標は大成学園と放課後デイをミックスし1都3県に進出し、高校生が1学年300人以上生徒数1,000人を超える広域通信制高校を設置することです。皆さん、その時が早く訪れるよう応援してください。今の仕事は正に苦労した50年の集大成です。

もう一つの思いは、やり残した郷土史のことで。小中学時代を通じて地元武山の歴史を調べ続けてきました。常に夏休みの自由研究の発表では、表彰されてきました。郷土史の先生は芦名の辻井善弥先生です。横高時代は歴史研究部を作りました。仕事は塾・予備校経営でしたので日本史も担当し、横高はもとより県内トップ校に進学させたり、大学は早慶へも合格させてきました。

今から20年前本格的に日本史を勉強するために48歳で慶応義塾大学文学部美学美術史専攻に3年次学士編入し、もう一度大学生に戻りました。飛鳥、白鳳、天平、弘仁貞観、国風、鎌倉、室町時代の仏像について研究しました。慶応の文学部の女子大生は美人が多く楽しかったです。私は平安初期の一木造の修験者や仏師の魂を込められた仏像が好きです。一木造りの技法は753年に失明してまで日本にやって来た鑑真和上が連れてきた仏師たちにより唐招提寺に伝わりました。神護寺、室生寺や新薬師寺の仏は素晴らしい。将来のことも考え京都御所のすぐ横に「京都カナガク学習センター放課後デイ」を開所しています。引退したら京都奈良に移り住もうか検討中です。慶応でまた勉強したいとも思っています。横須賀ロータリークラブに入会した目的の1つは故郷の横須賀に戻り、郷土史に触れたい。そして地元の歴史を多くの子供たちに伝え横須賀を愛する子供たちを多く作りたいとの考えからです。是非一緒に勉強しましょう。これからの人

生は実業家と夢のある歴史研究家の間を行ったり来たりする正に夢と現（うつつ）を行き来する過ごし方を描いています。これからもよろしくお願いいたします。

<新会員卓話 2>

杉浦浩子 会員

杉浦浩子と申します。一昨年（2021年）の12月に伝統と格式のあるロータリークラブに入会させて頂き、今回は卓話の機会を頂きありがとうございます。

私は昨年（2020年）の1月末にそれまで勤務しておりました長野労働局を退職しました。退職までの約9年間は長野県に移住を希望する方へキャリアコンサルタントとして就職支援、また長野県の事業者の方からも採用に関してご相談を受けておりました。キャリアコンサルタントのキャリアの意味をご存じでしょうか？キャリアアップ、キャリアチェンジ、キャリア官僚などよくキャリアという言葉を使いますが私もキャリアコンサルタントの勉強をするまでキャリアの意味を知らずに使っておりました。キャリアコンサルタントの勉強ではキャリアとは轍であると教えられました。轍と言われてもピンときませんでしたが、轍とは馬車の通った車輪の跡だと教えられました。ここで私の乗った馬車のお話しをします。



職業人生という馬車に乗る前の私ですが、1962年3月25日に愛媛県松山市で誕生、予定日より早めに生まれたため出生時の体重は2,520グラムで、母はこんな小さな子を育てられるか不安で泣いてしまったそうです。当時は体も弱く私は母と祖母、叔母と常に大人に守られ育ってきたように思います。また小学校入学直前に交通事故で左足を骨折、入学が2ヶ月ほど遅れました。入学後しばらくは母が登下校につきそい、同学年の子との交流も少なく、本を読んだり塗り絵をしたりと家で過ごす事が多かったです。時は流れて高校2年生になり、そろそろ進路を考えなければならなくなった時に私は多分普通のOLにはなれないだろう、それに結婚もしないのではないかと漠然と思いました。それならば、技術を身につけたいと専門学校で情報処理を学ぶ事にしました。専門学校を卒業後、外資系の商社に就職をして社内システムの開発に携わっておりましたが、私の所属していた部所は香港へ転勤する事になりましたが、親元を離れた事もない自分が海外で暮らす自信がなく退職しました。次の職場では派遣社員として大手の保険会社が代理店向けに開発したパッケージソフトのテストと運用後のヘルプデスク業務を担当することになりましたがここで転機が訪れました。パッケージを導入する代理店が増えてそのソフトの使用方法を教えるインストラクターが不足している一方、自分の仕事はそれほど忙しくなかったのでインストラクターをしないかと打診がありました。インストラクターと言っても教室で教えるわけではなく導入した代理店さんに出向いて直接教えるのが主な業務で一つの代理店には最低3回は出向いて研修しなければいけません。人と話す事が苦手な情報処理の道を選んだのに、よりによって面と向き合って研修をするなんて無理だし、代理店は全国にあるので飛行機が嫌いな私に務まる訳もなかったのですが、辞めて次の仕事を探すのも面倒な事と、当時の時給がとても良かった事もあり飛行機を使わないですむ場所を条件に引き受けました。そうして、甲府、三島、名古屋の代理店を受け持ちヘルプデスク業務も兼任していましたが、研修業務が更に多忙になり結局仕事に余裕のある自分に担当が割り振られる事が多くさらに札幌、青森、大阪、奈良、大分と毎週どこかに出張していました。忙しい飛行機が嫌いなのは相変わらずでしたが、時はバブルの真最中で当時の自分の年齢としては普通なら経験できない面白い経験もたくさんできました。そのプロジェクトも終わり派遣期間も終了するとき新しい派遣先の話はあったものの、私は意外と人とも話せるし外に出るのも嫌いではないと気づき次の職場で黙々とシステム開発している自分が想像できませんでした。そんな時、新聞で添乗員募集の求人を発見してどうせ受かるわけないと気楽に受けたところ採用され、あれほど飛行機嫌い、出不精、内向的と思っていた自分が添乗員として働く事になりました。

しばらく国内添乗のあと、初めての海外添乗が中国でした。中国のツアーは中国側の随員が必ずついていて新人の添乗員にはありがたかったのですが、初めての海外添乗で私は中国ツアーの添乗員なら必ず経験するだろう「没有（めいよう）」の洗礼を浴びました。没有とは無いとの意味でこれを言われたら何を言っても没有、随員ですらお手あげです。その洗礼は最後の行程の北京でした。ホテルについてチェックインの手続きをしたらフロントの方から「没有」と言われ、自分では手に負えないので旅行会社の現地事務所に連絡、幸いにも支店長に連絡がつき、ホテルに来てくれることになりましたが、お客様をホテルのロビーに立たせて待たせる訳にもいかないので、喫茶コーナーでお待ち頂く事にして、私もそこでお客様と支店長を待ちました。その時のお客様が良い方ばかりでコーヒーを飲んでる私にケーキを頼んでくれたり、ビールを持ってきてくれたり、不満を漏らすこと無く和気あいあいお話ししながら支店長を待ちました。しばらくして支店長が来た時ロビーで半ベソ状態の添乗員のところに駆け寄ったらそれは別のツアーの添乗員で自分の会社のグループは喫茶コーナーでビール飲みながら、ケーキ食べてお客様と笑っている添乗員らしき人物を発見して唖然としたそうです。

他のホテルに移動にはなりましたが、無事に部屋も確保でき私の初海外添乗もなんとか終わりました。その後その支店長から少し北京で働いてみないかと話があり、約1年北京で駐在員として勤務しました。初添乗で部屋が無い状況の中お客と一緒にビール飲んだりケーキ食べたりしている奴なら中国でもタフに働けると思ったそうです。日本に戻ってから中国への添乗業務が多く、駐在員の経験もあったので一般的な観光地でなく、ウルムチやトルファン、カシュガル敦煌など難しい場所への添乗が多くアサインされていました。それから少し経って私は1度目の結婚をして数は減らしながら添乗もしていましたが急病の添乗員の代わりなど急な添乗の依頼もあり両立は難しいと添乗員としての業務を辞めました。その後の私はエアラインの予約センターでのオペレーター業務、その仕事を通じて別のライフラインの会社のコールセンターのスーパーバイザーとしてお声がけ頂き、それなりにやりがいを持ち仕事をしておりました。しかし、愛媛の母が膵臓がんになり医師からは余命との戦いと言われそれから1年後のひな祭りの日に逝去、その後長年肝臓を患っていた父の介護もあり仕事を退職しました。父は母が亡くなった同じ年の12月23日当時の天皇誕生日に亡くなりました。

私はスーパーバイザーですぐに再就職できると考えていましたが、年齢的な事もあり苦戦する中、ハローワークでキャリアコンサルタント養成講座の職業訓練のリーフレットを見つけ、こういう資格があれば就職に有利かもしれないと考えて訓練を受講してキャリアコンサルタントの受験資格を得て無事に1度目のチャレンジで学科、実技とも合格してキャリアコンサルタントの資格を得ました。相変わらず再就職には苦労しているなかでキャリアコンサルタントの資格団体から職業訓練校の受講生へのキャリアコンサルティングの仕事の紹介があり3つの訓練コースの受講生の就職支援に携わりました。資格団体からいくつかの仕事の依頼を受けながら私は新設される若者向けのハローワークに採用されて非正規の経験しかない若者を正規社員として採用されるよう応募書類の添削を始め様々な支援をしてきました。約4年ハローワークでの勤務をしながら併せて新しくできるキャリアコンサルティング技能士と言う国家資格得のための講座の運営をキャリアコンサルティング協議会から依頼を受け休日は各地に出張し講座運営と更に厚労省の事業で経験の少ないキャリアコンサルタントの指導者を育成する事業で指導者になるための研修を1年受講し、10名ほどのキャリアコンサルタントの指導を受け持ちました。これらの業務や指導者研修の受講は自分から望んだものではなく、自分の所属している団体から依頼を受けてのものでした。私のような者がこのような経験ができたのも所属していた団体がさほどメジャーではなく人材の乏しい弱小団体と、その団体からの業務依頼は断らなかつたからではないかと思えます。面倒くさがりなので断る言い訳を考えるのが面倒と言うのが本心ですが、団体としては使いやすかつたと思えます。そして直近まで勤務していた長野労働局の仕事はその時勤務していたハローワークの若年者支援部門の縮小が現実味を帯びていたもので、みんなが一斉に就職活動する前に偶然見つけた求人でした。約9年のうちコロナで在宅勤務などありましたが延べ5千件以上の相談を受けました。また県内ほとんどの市町村を訪れ役場の方や事業所の方との意見交換もしてきました。以上が私の馬車の進んだ跡です。

キャリアコンサルタントの学習をしていて様々なキャリア発達理論を学習しました。ほとんどの理論はもうすっかり忘れていますが、今でも覚えている「計画された偶発性」と言うクランボルツ博士の提唱された理論が好きです。

簡単に言うとキャリアの8割は偶然によって決定されるというものです。その偶然はただ待つだけでなく意図的、計画的に創り上げて行くことが大切でそのためには好奇心、持続性、楽観性、柔軟性、冒険心これらの行動指針を持つことが大事とされています。こうして振り返ると高校2年の時に内向的でコミュニケーションゼロの私が選択したキャリアは情報処理で食べて行こうというものでしたが、海外転勤を断り次の仕事では苦手なはずの研修講師の仕事を断らず、さらに全国へ出張講習を引き受けた事からその後の添乗員、駐在員、スーパーバイザーと言う仕事に就きその結晶がキャリアコンサルタントとして相談業務だけでなく、キャリアコンサルタントを目指す方の講座の運営やキャリアコンサルタントとして歩み始めた方の指導、アドバイスなど多くの経験ができたと思います。

自分が還暦を迎える少し前から自分の人生を考えると自分の人生は人に与えられてばかり、言ってみたら棚ぼた的なキャリアで自分は何も人のためにしていない、社会に恩返しができていないのではと強く考えるようになりました。自分ができることは何かと模索していました。そんな時に横須賀ロータリークラブのサイトに辿り着き、アップされていた週報を拝読して横須賀ロータリークラブの活動のイメージが明確になり、私もクラブの一員としてクラブを通して社会貢献ができるのではと考え入会を希望致しました。

私の乗る馬車はまだその旅路を止めている訳ではありません。ロータリークラブへの入会という新しい轍が出来、この選択がどのような道を進むかこれからも迷ったり悩んだりしたときは自分の走ってきた轍を振り返り研鑽を重ね、今後自分を待ち受ける計画された偶然を楽しみに仕事やロータリークラブの活動に励みたいと思いますので今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 杉浦 浩子